

偽りの平安を土台に

アモス書6章

カルネに渡つて見よ。そこから大ハマテに行き、またペリシテびとのガテに下つて見よ。彼らはこれらの国にまさっているか。彼らの土地はあなたがたの土地よりも大きいか。(2)

北王国イスラエル、南王国ユダがともに繁栄を誇つていた時代、アモスは両国の指導者たち、権力と勢力のゆえに安んじていた人々に神の審きを語ります。

「わざわいなるかな、安らかにシオンにいる者、また安心してサマリヤの山にいる者」(1)とあるように、アモスが彼らの安心感、偽りの平安を土台にしていることを指摘します。彼らは自分たちの都が地形的にも軍事的にも難攻不落であると考え、現在の繁栄に酔いしれて安逸をむさぼっていました。彼らの贅沢な生活ぶりが4節から6節にかけて記されています。「鉢をもつて酒を飲み、いと尊い油を身にぬり」(6)。そこでアモスは同じように繁栄する他国の都市の名前をあげ、「彼らはこれらの国にまさっているか。彼らの土地はあなたがたの土地よりも大きいか」と問いかけます。サマリヤの町は他の強大な都市に比べたら何ら勝るところなどないと告げます。もし彼らに勝るところがあるとするなら、それは真の神を信じているという一点でした。けれども彼らは、神に対する心からの信頼を失い、ただ自分たちの経済的・軍事的繁栄だけを頼りとし、偽りの平安を楽しんでいるのです。

わたしたちキリスト者の平安は自分たちの内にあるのではなく、一方的な主の恵みと慈しみにこそ、平安の根拠があるのです。